



八百屋の後継者を中心に地域を活性化！ 第2回 やっちゃば秋葉原が秋葉原公園で開催！

第2回 やっちゃば秋葉原～学べるマルシェ～「山東菜市」

■期日：12月9日(日) 10時～15時

■場所：秋葉原駅前(昭和通り口)秋葉原公園

■主催：東京都青果物商業協同組合 後援：千代田区

■内容：山東菜の模擬競売・展示即売、青果展示、試食配布、郷土料理等の模擬店 等

■ 様々な産地が自慢の青果物をPR！

12月9日(日)に秋葉原駅前の秋葉原公園を会場として、「第2回 やっちゃば秋葉原～学べるマルシェ～」が開催されました。「やっちゃば秋葉原」は、昨年から東京都青果物商業協同組合本部青年会が主体となって始めたイベントです。このイベントでは「農林水産物の生産振興」や「ライフステージに合わせた食育」「野菜摂取量増大」を目的とするほか、イベント会場である秋葉原公園の近隣にあった「神田市場の歴史の伝承」などを行うことで、秋葉原駅前の活性化や近隣住民との交流の場作りとしての役割を果たしています。

第2回となる今回は、昭和時代に師走の訪れを告げる代名詞として多く生産されていた「山東菜」をテーマとし、山東菜の展示や模擬競売、青果物の一般向け競売が行われたほか、様々な産地から自慢の青果物の展示や販売、試食提供などが行われました。また、会場にはゲームエリアが設置され、景品として出展している各産地自慢の青果物が当たるなど、来場者が青果物と触れ合う機会を増やす工夫が行われていました。



テーマである「山東菜」の展示



来場者の競売体験

■ 試食等の提供で群馬の魅力をPR！

当センターでは、JA太田市、群馬県東部農業事務所普及指導課と連携して本イベントへ出展し、本県産青果物等のPRを実施しました。今回はイベントのテーマが「山東菜」であったため、同じ葉物野菜である太田市藪塚産の「ほうれん草」と「小松菜」を中心に、主催者からの要望を受け「下仁田ネギ」を展示しました。また、試食として「小松菜と玉子のスープ」と「焼いた下仁田ネギ」を提供しました。

試食は大変好評で、試食を食べた来場者からは、「スープの小松菜が美味しい」「下仁田ネギは初めて食べたが、甘くてびっくりした」などの感想が聞かれ、本県産青果物の美味しさと品質の高さをPRすることができました。特に下仁田ネギについては、多くの来場者が関心を示し、食べ方や特徴などについての質問が多く聞かれました。

今回展示を行った野菜は、ゲームエリアの景品にもなっており、試食をした方の中には、下仁田ネギを手に入れるためにゲームに挑戦する方も見られました。また、ほうれん草や小松菜は、JA太田市による販売が行われ、試食後に購入する来場者も見られました。

ブースでは、野菜類の展示の他にも、展示した野菜の食べ方が記載されたリーフレットや果樹園マップを始めとした様々なパンフレットの配布を行い、本県産農産物のPRを行うとともに、「ぐんま観光マップ」や今年移転した「ぐんまちゃん家」のパンフレットを配布するなど、本県の魅力について幅広いPRを実施しました。

本イベントを主催した東京都青果物商業協同組合では、この他にも「八百屋塾」という八百屋の後継者の勉強会を開催するなど、八百屋の知識向上に向けた積極的な取組が行われています。そのような場に積極的に参加し、消費者に販売を行う八百屋の方々に本県産青果物のPRを行うことで、「八百屋に選ばれる産地」になっていくことが、本県産農産物のブランド力向上の一助になるのではないかと考えます。



群馬県ブースの様子



試食提供した小松菜のスープと焼いた下仁田ネギ